

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05268	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	極限寿命生物の活動的長寿を支える抗老化システム	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	松浦 健二 (京都大学・大学院農学研究科・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、生物の老化・長寿の仕組みを解明するため、ヤマトシロアリの王の極限的長寿を可能にするメカニズムを、様々な点から明らかにすることを目指している。</p> <p>これまでに、ヤマトシロアリのゲノム解読、カースト分化に関わる候補因子の特定、王特異的ロイヤルフード成分の特定、王・女王の代謝解析の基盤確立、低酸素環境の影響解析などで、着実に優れた研究成果をあげており、研究は順調に進捗していると評価できる。なお、DNAメチル化と超長寿との関係の詳細な解析、王特異的ロイヤルフード成分の機能解析、王特異的代謝活性の解明等、未解明な課題も多く残っていることから、今後、王の超長寿の中心的メカニズム解明につながる研究の更なる進展を期待する。</p>		